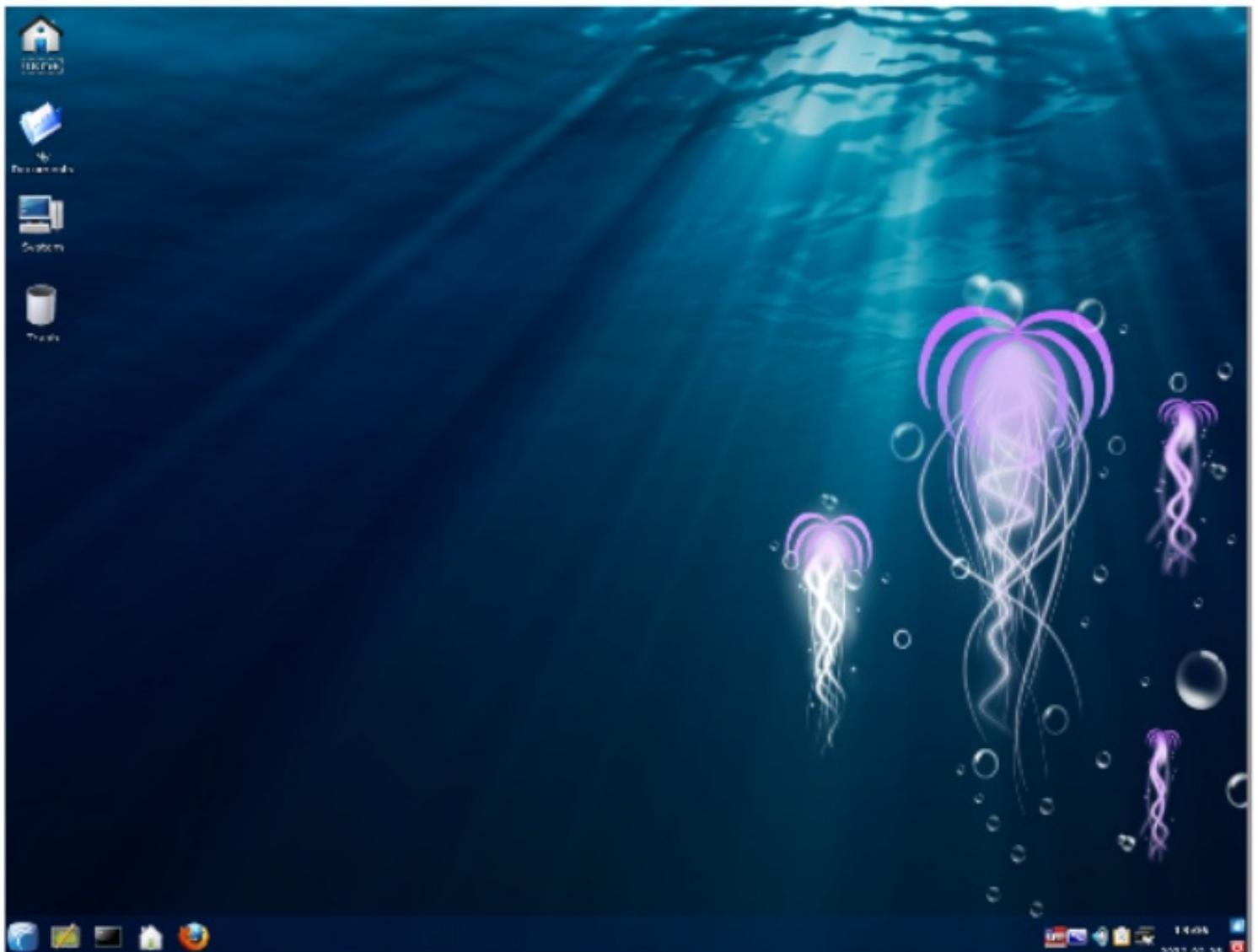


cool-da

だってクールだ Porteus

porteus



<http://www.porteus.org/>

だってクールだ ポーティアス。



ポーティアスは、1.1のファイナルバージョンが快調に動作しています。

ここでは、32ビットバージョンをご紹介します。

64ビット版は、こちらを御参照下さい。

<http://p.booklog.jp/book/34047>

32と64は、責任者も分かれており、たとえば、見た感じも異なるところがあります。

ポーティアスV1.1は、

1. 驚くほど軽快に動きます、特にUSBペンに入れた場合のスピードには、まいりました、という感じです。
2. 全体、とても洗練され、見事な完成度を示しています。
3. カーネルは、Linux 3.1.8-porteus。
4. 255メガのサイズなのに、KDEを使った本格仕立て。
5. LXDEも選べ、この場合、Kのアプリはそのまま使えます。
6. 依存ファイルも一緒に取り込んでくれる、Porteus Package Managerが、サポートされました。

スラックスとの相違点

1. 使用者はユーザーとなり、気軽にルートでなんでもやることができなくなりました。ただし、ルートで入りたい時は、テキストモードから簡単に入れます。
2. スラックスで、USBペンを使った場合、changes=/slax/が機能し、前回の操作は保全されます。
ポーティアスでは、ファイルシステムの事故で、データを失うケースを予防するため、手動にて、save.datコンテナを作る必要があります。

ステージ1 ポーティウス v1.1をCDに焼く。



<https://porteus.org/distro-download/download-latest-32-bit.html>

にて、currentから、porteus-v1.1-i486.iso を入手します。サイズは、255MB。
これをそのままCDイメージとしてCDに焼けば、ブート可能なCDとなります。
アップルでのCDの焼き方を確認したい場合は、こちらを参照してください。

<http://p.booklog.jp/book/9653/page/102703>

ステージ2 **USB**ペンドライブを**FAT32**で初期化、ブートフラッグを立てる。



USBペンドライブを用意します。

ペンは、購入時点で、初期化されています。

しかし、通常は、改めて初期化を行います。

初期化の方法は、ジーパーテッドのライブCDを使った方法を
紹介しているので、参考にしてください。

<http://p.booklog.jp/book/14157/page/158583>

初期化が済みましたら、パソコンから抜いておきます。

ペンドライブの着脱は、パソコンのOSが指示する方法で行ってください。

ステージ3 USBペンにポータィアスをインストール。



ペンドライブを差し込み、

ポータィアス ライブCDを、ルート権限で立ち上げます。

大きな地球が出ましたら、アローキーで、下がり、

Text modeをセレクト、リタン。

次にストップするのは、

porteus login: root とタイプ、リタン。

Password: toor とタイプ、リタン。

root@porteus: startx とタイプ、リタン。

ライブCDが立ち上がりましたら、全部上がるまで少し待って、

左下パネルのホームアイコンをクリック。

コンカラーの左の端、Servicesをクリック。

すると、USBペンの名前が出ていますので、クリック。

中身は、まだ何も入っていないので、白いままで。

ホームをもうひとつ開き、/mnt/sr0に行きます。

bootとporteusフォルダーが見えます。

先にboot、そしてporteusをUSBペンにコピーします。

サイズは、5Mbと262Mb。

ここから、設定作業に入ります。

Konsoleに、USBペンのbootフォルダーをドロップ、cdをクリック。

lsすると、lin_start_here.shファイルがあるのが見えます。

```
# ./lin_start_here.sh
```

ダイアログがでましたら、7とタイプします。

最初の質問は、マスターブートレコードのバックアップを作るかです。

yとタイプ。

リタン。

save.datの説明、aとタイプ、リタン。

これで終了、aとタイプ、リタン。

ステージ3 USBペンにポータィアスをインストール。は完了です。

ステージ4 USBペンをブートする専用のCDを作る。



1. ポーティアス ライブCDを、ルートで立ち上げます。
最初に地球が出てきましたら、アローキーで下がり、
Text modeをセレクト。
porteus login: root。
Password: toor。
root@porteus: startx。
2. 以下のテキストをmyboot.shという名前で、ルートに置き、
chmod 755 myboot.sh。
./myboot.sh。
#!/bin/sh
myboot.sh
mkdir -p /root/myboot/porteus
cp -a /mnt/sdb1/boot /root/myboot
cp /mnt/sdb1/porteus/make_iso.sh /root/myboot/porteus/
chmod -R 777 /root/myboot
exec /root/myboot/porteus/make_iso.sh /tmp/myboot.iso
3. /tmpに、イソファイルが出来ています。
これで、CDイメージのCDを作ります。

myboot.isoをCDに焼く前の準備作業。

4. rootから、左上にある上向きアローキーにて、1段階上がり、/tmpに行くと、myboot.isoが出来ているのが見えます。
ここで、モード変更をもう1度行っておきます。

```
# chmod -R 777 myboot.iso
```


これは、大事な作業なので、忘れずに行います。
マルチメディアから、K3bをクリック、CDに焼く作業を行います。
ダイアログの、Burn CD Image をクリック。
myboot.isoを、ドラッグドロップします。
中央の、Burn Medium に、Please insert an empty CD-R...とありますので、
eject で、トレイを開け、新しいCDを入れたら、# eject -t。スタートボタン。
これで、少し待てば、できあがります。
ここで元のCDを入れておいた方が確実な場合がありますので、
再度、ライブCDを入れ、# eject -t とします。
コンソールから、# /sbin/reboot リターン。
これで、ブート専用のスタートCDが出来ました。
mysave.dat にて、操作したことを次回にも反映させたい場合、
この動作をchangesと呼んでいますが、チェンジスをセーブする場所を
明示する必要があり、それは、ブートの時、地球が出たら、タブキーで止め、
changes=/mnt/sdb1/mysave.dat とタイプします。
これをしないで、自動化するには、bootフォルダーの中に存在する、
porteus.cfg というテキストを編集します。
その編集を済ませてから、CDに焼いて下さい。

ステージ5 **save.dat**の設定をする。



USBペンを差し込み、ブート専用CDをトレイに入れ、再起動します。

ブート専用CDだと、USBからのブートに対応していない、アップル、古いマシン、及び、バイオスの設定に触れたくない時、などに使えます。

アップルでは、CDを入れ、再起動したら、オプションキーを押したままにします。

アイコンが出ましたら、アローキーで、CDのアイコンをセレクト、リタン。

USBペンで操作を行い、変更されたものを、次回も継続して保持する、

この状態を作るには、save.datの設定が必要です。

Menu -> System -> Porteus save.dat managerをクリック。

ルートのパスワードは、toorとタイプ、リタン。

1. ダイアログの1、Create a new save.dat file がセレクトされています。OK。
2. 次のダイアログ、Enter a name for new save.dat file が出ます。
ここでは、mysave.datという名前にします。名前をタイプして、OKをクリック。
3. ダイアログは、Please choose a place to create your save.dat となり、
ダットファイルをどこに作るか聞いてきます。
現在は/が選ばれています。その下を指定していきます。
出来上がりが、/mnt/sdb1/mysave.dat となるようにします。
マシンにHDDが1つの場合、USBペンは、sdb1となります。
mntをセレクト、ダブルクリックすると、上部のフィールドは、'/mnt'となり、
次に、sdb1をセレクト、ダブルクリックで、'/mnt/sdb1'となり、
これでOKをクリック。コンファームに、Yesとします。
4. 最後に作成するダットファイルのサイズを調節するスライダーが出てきます。
アローキーで操作して、値を入れます。ここでは、1024Mbにしました。

使うときは、立ち上げで、ポーティアスの地球が出ましたら、タブをヒット、

下に、changes=/porteus/の部分が出ます。これをアローキーで戻し、

changes=/mnt/sdb1/mysave.dat とタイプ、リタンします。

これで、ステージ5 save.datの設定をする。は完了です。

porteus.cfg ファイルの編集。



porteus.cfg ファイルを見て行きます、そして、アペンドというのが先頭にある行を見つけます。その行の後半に、changes=/porteus/ と書いてあるところを、changes=/mnt/sdb1/mysave.dat に変更します。

```
LABEL kde
```

```
MENU LABEL Graphics mode (KDE)
```

```
KERNEL /boot/vmlinuz
```

```
APPEND initrd=/boot/initrd.xz vga=791 changes=/mnt/sdb1/mysave.dat
```

```
TEXT HELP
```

```
    Run Porteus the best way we can.
```

```
    Try to autoconfigure graphics
```

```
    card and use the maximum
```

```
    allowed resolution
```

```
ENDTEXT
```

```
LABEL lxde
```

```
MENU LABEL Graphics mode (LXDE)
```

```
KERNEL /boot/vmlinuz
```

```
APPEND initrd=/boot/initrd.xz vga=791 lxde changes=/mnt/sdc1/mysave.dat
```

```
TEXT HELP
```

```
    Run Porteus the same as above.
```

```
    Lightweight LXDE to be
```

```
    launched as default desktop
```

```
ENDTEXT
```

フレッシュの部分は、工場出荷と同じという意味なので、チェンジスは無しです。こちらでは、テキストにもチェンジスを加えてありますが、お好みで、行って下さい。セーブして終了です。



System -> Porteus Package Manager で、ダイアログが出ます。

ルートでの操作になりますので、'toor' とタイプ。

パッケージの収納場所ですが、スラックスの時と同じ場所がおすすめです。

マシーンにHDDが1台、USBペンはFAT32で、初期化、パーティションを切ってなければ、sdb1となります。

この場合、/mnt/sdb1/porteus/modules として下さい。

次に、パッケージマネジャーのアップデートのお知らせが出ましたら、OKします。

ここで、1度再起動をしておきます。

パッケージマネジャーは、2度目からは、

上のサーチと、下のメニューを変更する部分に分かれた画面が登場します。

下のSlackwareをプッシュしてみます。

すると、データベースのために、200Mb程必要です、と聞いてきます。Yesとします。

次にダイアログが出て、ダウンロードしたファイルを、モジュールにするか聞いてきます。

モジュールにしたほうが、サイズも小さくなるはずなので、ここは、オーケーします。

ここで、なにかインストールして見ましょう。

ルビーは、デフォルトで入っていないので、探します。

サーチは、slackware-12.2 から始まっていますので、rubyと入れ、虫眼鏡をプッシュ。

ruby-1.8.7_p72-i486-2という使いなれたものが出ました。

これをセレクトしますと、インフォが出ます。

Download nowをプッシュ、convert after downloadもセレクト。

これで、tgzファイルは/tmpに、

xzmモジュールは/mnt/sdb1/porteus/modules に収納されます。

最初、ルビーの名前、ruby-1.8.7_p72-i486-2を、セレクトしないで、

そのまま実行させたら、固まってしまいました。

従って、実行前にリストをセレクトするのが、おすすめです。

ステージ7 Editor アプリの入手。



ブルーフィッシュは、ポータィアスのレポにありますので、新しいサービス、パッケージマネジャーを使います。

K Menu -> System -> Porteus Package Manager

パスワードに、'toor'と入れます。

上の段の、カテゴリーをプッシュ。

categories/keywordsのダイアログが出ます。

左の欄から、developmentをクリック、先頭にBluefish が見えます。

full description をクリックすると、

説明と、Get it now というのがありますので、これをクリック

稼働の準備ができましたのダイアログが出ます。

依存ファイルもちゃんと整えてくれました。

ここでは、Activate now をプッシュします。

このように、ポータィアスのレポでは、見事に動作しております。



scimを、入力に使うと、リーフパッド、ブルーフィッシュ、ジーエディットなどで、手軽に日本語入力ができます。

パッケージマネジャーを立ち上げ、下にある

Slackware、そして、上のSearch Slackwareを押します

anthy といれ、13.37から探していきます。

anthy-9100h-486-1 が出てきましたので、これを入手します。

Convert after download にチェックマーク、Download now.

同様の操作にて、

以下のモジュールを入手します。

scim-1.4.9-i486-5.xzm

scim-anthy-1.2.4-i486-2.xzm

scim-bridge-0.4.16-i486-5.xzm

再起動後、ブルーフィッシュなどから、最初に、テキスト上で右クリックして、input methodのリストから、SCIM bridge input Method を選択する必要があります。

その後は、コントロール+スペースバーで、scim_Anthyが登場します。

この作業が必要だと、ジーエディットは、右クリックを他の用途に使用しているので、日本語を選べないことになります。

なので、gnome系のジーエディットなどが必要になるかもしれません。

ジーエディットは、パッケージマネジャーから、スラッキーで探します。

依存ファイルのサポートは、未だされていない様子ですが、それでもいづらか楽です。

そこで、個別に、

gedit

gtksourceview

GConf

ORBit

として、入手して下さい。



日本語でメニューなどを表示する、ロケールのモジュールを作成します。

K Menu -> System -> Language Selection Toolをクリック、
ターミナルが出るので、toorとタイプ。ダイアログが現れます。

1. ダイアログの1 出来上がりサイズの説明があります。
本体が26Mbとありますが、全てを日本語と考えなければ、
5Mb程度になると思います。OKをクリック。
2. ダイアログの2 1. I want UTF-8 encoding OKをクリック。
3. ダイアログの3 ja_JP.utf8 まで下り、セレクト、OK。
4. ダイアログの4 glibc-i18nをダウンロードしたい、OK。
5. ダイアログの5 jp106.map をセレクト。
6. ダイアログの6 コンソールのフォント、Skipをクリック。
7. ダイアログの7 右サイドにあるリストから、USA us を残し、
それ以外は、<< Remove します。Brazil、Czechia、Franceなどを、
左サイドに移動させて下さい。今度は左サイドのリストをナビゲイト、
Japan をセレクト、Add >> にて、右サイドに移動させます。
いま移動した、Japan jp をセレクト、Layout variant のポップアップを開き、
106をセレクトしておきます。これで、Applyボタンを押します。
8. ダイアログの8 NTFSとFATのオートマウント、Yes。
9. ダイアログの9 KDE環境、kde-i18-jaをセレクト、OK。
10. ダイアログの10 System language LXDE, MC, bashなどでの、
日本語表示です。節約して、en_US にしました。OK。
11. ダイアログの11 マニュアルの言語、読まないの
下にある、English ボタンを押します。

porteus/modulesフォルダーに、locales-ja_JP.utf8.xzm
が作成されました。再起動すると有効になります。

尚作業を途中で中止しても、ファイルの生成は最後にするので、
問題ないとのこと。

ステージ8 日本語でメニューを表示する。は完了です。

ステージ10 ラップアップ。



スラックス7の開発が進展中ということで、

トーマスの手元で動いているプリアルファを見ることができます。

<http://www.tomas-m.com/blog/18210-Slax-7-technology-preview.html>

みんなが待っているスラックス7ですが、登場はもう少し先になるということです。

ポータィアスの完成度も上がっているので、一体どんなものが出てくるのか、

みんな、ワクワク、待ちどおしいです。